

東濃地科学センターの状況

1. 瑞浪超深地層研究所研究坑道掘削工事

- 主立坑の掘削作業（3/1 現在 500.4m）坑内外設備の維持管理
- 換気立坑の掘削作業（3/1 現在 500.2m）坑内外設備の維持管理
- 深度 500m の水平坑道の掘削作業（H23/4/21～）
- 瑞浪超深地層研究所からの排水
 - ・排水処理設備：放流を実施中（H25/1 の平均排水量：757 m³/日）

2. 調査研究

（1）超深地層研究所計画

〔瑞浪超深地層研究所〕

- ・深度 200m のボーリング横坑（主立坑、換気立坑）及び深度 300m のボーリング横坑（換気立坑）における鉛直ボーリング孔（07MI08, 09・09MI17-1, 18, 19 号孔）を用いた地下水水圧観測を継続
- ・深度 200m、深度 300m 及び深度 400m の水平坑道（予備ステージ）における水平ボーリング孔（07MI07・09MI20・10MI26 号孔）を用いた地下水水圧・水質観測を継続
- ・深度 300m 研究アクセス坑道における水平ボーリング孔（10MI23 号孔）を用いた地下水水圧観測を継続
- ・地表からのボーリング孔（MSB-1～4・05ME06 号孔）を用いた地下水水圧・水質観測を継続
- ・主立坑、換気立坑の集水リングを用いた地下水水質観測を継続
- ・自然電位測定による地下水流動観測（深度 300m ステージ）を継続
- ・表層水理観測（研究所用地内 1 地点及び 04ME01 号孔）を継続

〔正馬様用地〕

- ・地表からのボーリング孔（AN-1, 3・MIU-2～4 号孔）を用いた地下水水圧観測を継続
- ・表層水理観測（正馬様用地内 3 地点及び 97MS-01, 02・98MS-03, 04・99MS-05・AI-7, 10 号孔）を継続

（2）広域地下水流動研究

- ・地表からのボーリング孔（DH-2, 7～9, 11～13, 15 号孔）を用いた地下水水圧観測を継続
- ・河川流量観測（日吉川下流域、柄石川流域）を継続

（3）地質環境の長期安定性に関する研究

- ・変動地形が明瞭でない活断層、震源断層等に係る調査技術の整備を継続（事例対象：東北地方太平洋沖地震による誘発地震震源域等）
- ・地質断層の再活動性に関する評価手法の開発を継続（事例対象：井戸沢断層、征矢原断層等）
- ・古水理地質学的アプローチによる地質環境の変化の予測・評価手法の開発を継続

3. 瑞浪超深地層研究所環境調査

- 流量観測を継続（狭間川 4 地点）
- 水位観測を継続（研究所周辺井戸 10 地点）
- 研究坑道掘削土に関する環境管理測定を継続
- 環境保全協定に基づく排水等の測定を継続

4. 瑞浪超深地層研究所における施設利用等

- ・東濃地震科学研究所の施設利用（深度 300m 研究アクセス坑道における重力計及び応力計による観測、研究坑道内における傾斜計を用いた岩盤変位計測等）を継続、研究坑道内における地震計設置作業を実施（6/5～）
- ・名古屋大学の施設利用（深度 200m ボーリング横坑（主立坑）における原子核乾板の保管）を継続
- ・産業技術総合研究所との共同研究（深度 300m 研究アクセス坑道における水平ボーリング孔（09MI21 号孔）を用いた地下水水圧・水質観測）を継続
- ・電力中央研究所との共同研究（深度 300m 研究アクセス坑道におけるボーリング孔（10MI24, 25 号孔）を用いた地下水水圧観測）を継続

瑞浪超深地層研究所研究坑道掘削工事の状況

(平成 25 年 3 月 1 日現在)

立坑

立坑掘削深度	主立坑	換気立坑
	500.40m	500.20m
3月8日までの予定	500.40m	500.20m

水平坑道

深度 300m 水平坑道の掘削進捗	主立坑側から	換気立坑側から (ボーリング横坑)
	95.70m 計測横坑①10.00m 計測横坑③ 3.00m 計測横坑④ 3.00m	19.75m (露岩部 5m 含む)
3月8日までの予定	—	—

深度 500m 水平坑道の掘削進捗	主立坑側から	換気立坑側から
	予備ステージ 15.75m 設備横坑 17.00m 研究アクセス北坑道 上半分 55.55m 下半分 55.55m ボーリング横坑 西側 15.0m 東側 3.7m	予備ステージ 15.15m 避難所 7.00m 研究アクセス南坑道 19.10m 20m 計測横坑 11.0m 20m ボーリング横坑 15.0m
3月8日までの予定	—	—

その他

その他の作業	主立坑	換気立坑
	先行ボーリング	先行ボーリング
3月8日までの予定	先行ボーリング	先行ボーリング

